様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２６２３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ００４３１

研究課題名（和文）古・中英語期における女性聖人伝の系譜研究：Aelfricのテクストと言語を中心に

研究課題名（英文）A Study of Woman Saints' Tradition in Old and Middle English, with Special Reference to Aelfric's Text and Language

研究代表者
島崎　里子（Shimazaki, Satoko）

昭和女子大学・文学研究科・准教授

研究者番号：９０２７６６１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、これまでの研究成果をもとに、調査の対象を古・中英語期を通じて最も重要なテーマの一つである「女性聖人伝（聖女伝）」に絞り、特に系譜という観点から、Aldhelm、Bedeら初期のアングロ・ラテン作家およびAelfricに代表される古英語散文作家たちの作品を比較対照し、言語と作品構成の両面から分析を行って、特にAelfricの描く女性聖人像の特徴を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　古・中英語期の聖人伝研究は、従来、語学的アプローチの対象としてのみ扱われることが多く、作品を通して当時の作家たちの思想や社会の様相にまで踏み込んだアプローチは、他の時代に比べて大きく立ち後れている現状がある。
　本研究は、当時の英国キリスト教社会が、女性聖人という表象を通じて、ヨーロッパ大陸の文化をいかに受容し、独自に変容、発展させていったかを、言語と作品構成の両面から解明しようとしたもので、そこに学術的・社会的意義を見出すことができると考えている。

研究成果の概要（英文）：This research focused on the language and the narrative method of the Old English Saints' Lives in a genealogical perspective. The original Latin version of the Lives of Woman Saints were received by English audience, firstly through the works of early Anglo-Latin writers such as Aldhelm and Bede, and later through Old English translations by the English authors such as Aelfric. In the process of translation, however, the texts were edited rather freely by the English authors. This means that the Old English texts are highly dependent on their authors' treatment of the original texts. In order to clarify these authors', especially Aelfric's, attitudes towards the original Latin version, a close examination with diachronic and synchronic respect was made through the analysis of their characteristic language use for depicting the woman saints, based on the diplomatic parallel texts originally edited by the present researcher.

研究分野：古代・中世英文学、英語史

キーワード：古英語　中英語　女性　聖人伝　Aelfric

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

Aelfric が活躍した 10 世紀後半から 11 世紀初頭にかけての英国では、宗教界の共通言語であるラテン語を十分に理解できない聖職者の増加に伴って、英語による聖書や聖人伝への需要が高まり、多くのラテン語文献が英訳されていた。しかし、ラテン語原典そのままでは、当時の英国社会に馴染まない内容が含まれることも多く、古英語作家たちは、聴衆への影響や理解度に配慮しつつ、原典に独自の改変を施して英訳を行っていた。当時を代表する宗教散文作家である Aelfric もまた、キリスト教の正統な教義の伝承を目的としながらも、原典の表現や内容を大幅に改変し、逐語訳とは全く異なる彼自身の思想を反映した独自の作品を次々に制作した。中でも Aelfric の描く女性像は、大胆かつ巧みな改変によって原典世界とは異なる独自の特徴を備えている。ここでの改変は、原典の語彙や表現を加除修正するレベルにとどまらず、場面設定など作品構成のレベルにおいても行われ、描かれる女性像に大きな影響を及ぼしている。このような女性像への対応は、Wulfstan など同時代の他の作家には見ることができず、注目に値するにもかかわらず、これまでほとんど指摘されてこなかった。

このように、ラテン語原典とその古英語訳作品の比較対照分析作業を行うことで、当時の英国宗教界がいかにヨーロッパ大陸(ラテン語原典世界)の女性像を受容し、それを自国語で、教会に集う多様な人々に伝えようとしたのかという、これまで見過ごされてきた社会通念の一端を浮かび上がらせることができるのではないか、更に、同一の女性聖人を扱った作品の系譜を丹念に辿ることで、英国人作家たちが、大陸から受容した女性像を変容させ、独自の女性像を作り上げていった過程を解き明かす手がかりを得ることができるのではないかと考えたことが、本研究を開始した当初の背景である。

２．研究の目的

本研究は、これまでに行ってきた古・中英語期の韻文および散文における女性像の研究を継続発展させることを目的とし、最終的な目標である「古・中英語期における女性像の受容と変容の研究」の一部として行うものである。

既に得た研究成果をもとに、調査の対象を古・中英語期を通じて最も重要なテーマのひとつである「女性聖人伝（聖女伝）」に絞り、系譜という観点から、Aldhelm、Bede ら初期のアングロ・ラテン作家および Aelfric をはじめとする古英語散文作家たちの作品を比較対照し、言語と作品構成の両面から詳細に分析を行って、彼らの描く女性聖人像の特徴とその発展の軌跡を辿る。

従来、語学的アプローチの対象としてのみ扱われてきたこれらの作品の思想にまで踏み込み、当時の男性中心の英国キリスト教社会が、女性聖人という一つの表象を通じてヨーロッパ大陸の文化をどのように受容し、独自に変容、発展させていったのかを解明することを目指す。

３．研究の方法

（１）まず、古・中英語期の全作品コーパスを網羅的に調査し、女性聖人を題材とする作品に特化した独自のカタログ・データベースの編集・作成を行って、書誌情報を整理する。すなわち、それぞれの作品について、①写本、②既存の刊本（diplomatic edition の有無)、③ラテン語原典の 3 項目に関する最新の情報を盛り込み、英国における女性聖人伝の受容と変容の実態と系譜の全容についてのアウトラインを明らかにする。

（２）次に、先に作成したカタログ・データベースを利用して、同一の女性聖人を取り上げて

いる作家を抽出し、それぞれのテクストを系譜の観点から調査する。

（３）その後、先に抽出した各作家のテクストを並列して配置し、言語や作品構成の異同を一覧することができる電子版テクスト（パラレルテクスト・データベース）を、作品ごとに作成する。これによって、各作家に特有の表現や語彙選択の傾向等の興味深い情報を視覚的に示すことが可能になると共に、女性聖人像が英国社会に受容されていく過程を検証することも可能になると考えている。

（４）最後に、作成したパラレルテクスト・データベースをもとにして、時代の異なる英国人作家たちが、同一の女性聖人をどのように描き出しているのかを、各テクストを精査しながら、さまざまなレベルで比較対照し、各作家たちの女性聖人伝の特徴を検証する。彼らがどのようにヨーロッパ大陸（ラテン語原典世界）の女性聖人像を受容し、独自のスタイルへと変容させていったのか、また、それぞれの作者の背景や、作品が成立した当時の社会の様相、表現上の独自性等の問題についても考察することで、言語や作品研究の面に加えて、受容史の観点からも貢献できる成果に結びつけ、最終的に、古英語期の英国における女性聖人伝の受容と変容の実態の一端を解明すると共に、今後の研究を展望する。

４．研究成果

（１）初年度である平成 30 年度は、課題研究の基盤整備を中心に行った。古・中英語期の全作品コーパスを網羅的に調査し、女性聖人を題材とする作品のカタログ・データベースの作成に取り組んだ。具体的には、各作品について、特に、写本、既存の刊本（写本に忠実な diplomatic text の有無)、ラテン語原典に関する最新の情報を盛り込み、英国における女性聖人伝の受容と変容のアウトラインを明らかにしようと試みた。同時に、次年度以降に行う女性聖人伝の受容の系譜研究のパイロットスタディとして、「聖アグネス伝」を取り上げ、原典の一つとされるアンブロシウス(Ambrose)のラテン語テクストと、Aldhelm(7C), Bede(8C), Old English Martyrology(9C)および Aelfric(10C)の英国作家たちのテクストの比較対照を行い、異同を明らかにする作業にも着手した。

特に本研究課題の中核となる Aelfric のテクストについては、British Library(London)の協力を受け、既存のテクスト(Skeat:1891-1900)と原写本(MS CottonJulius E. Vii)との厳密な照合作業を行って、電子版 diplomatic edition を新たに作成して使用した。また、ここで作成した Aelfric の電子版テクストとアンブロシウス(Ambrose)のラテン語テクストを並行して配置した電子版パラレルテクストおよびその異同についての詳細は、論文「古英語期における「聖アグネス伝」の受容について」としてまとめ、『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第 46 号、53-70 (2019)に掲載した。

（２）令和１年度は、前年度に作成した古・中英語期における女性聖人を題材とする作品のカタログ・データベースを活用して、系譜の観点から比較対照調査が可能となる、同一の女性聖人を主人公として扱った作品群の抽出作業を行った。その結果、ヨーロッパ大陸からイギリスに伝播し、Aldhelm（7C)、Bede（8C）らのアングロ・ラテン期を経て、作者不詳の *Old English Martyrology*（9C)、 Aelfric（10C）などの古英語期に至るまで、最も多くの作家たちが採用していることが判明した女性聖人伝のひとつである「聖ユージニア伝」に着目し、それぞれの作家のテクストを並列して配置するパラレルテクストを作成する作業に着手した。

パラレルテクスト作成の第一段階として、まずは、本課題研究の中心となる Aelfric の古英語テクストの校訂作業を行った。作業に当たっては、British Library（London）の協力を受け、既存のテクスト（Skeat:1891-1900）と原写本（MS Cotton Julius E. Vii）との厳密な照合を行って、その異同を明らかにしながら、電子版の diplomatic edition を新たに作成した。なお、ここで得られた成果の詳細は、論文「Aelfric の「聖ユージニア伝をめぐって--Diplomatic Text of 'the Life of St, Eugenia' in Aelfric's Lives of Saints, Traial Version」にまとめ、『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第 47 号、23-35（2020）に掲載した。

（３）令和 2 年度（当初の研究計画では 3 年計画の最終年度）は、前年度までに完成した古・中英語期の女性聖人を網羅したカタログ・データベースを利用して、系譜の観点から抽出した女性聖人伝について、各時代の代表的な作家（Aldhelm, Bede, Old English Martyrology, Aelfiric）たちの英語版テクストとその原典であるラテン語版テクストを比較対照し、作品構成と言語の両面からそれぞれの作家たちが描く女性像の特徴を明らかにすることを目指していた。しかし、COVID-19 の感染状況の悪化に伴う大学業務の増大で、研究にかかるエフォートの割合が大幅に減少したことに加えて、海外への渡航制限により、英国図書館での原典写本の閲覧が不可能となり、分析の基盤となるパラレルテクスト（diplomatic edition）自体も完成には至らず、オンラインで閲覧可能な写本について、テクスト校訂作業を行った。

（４）令和３年度（期間延長１年目）は、前年度までに完成に至らなかった古・中英語期の代表的な女性聖人伝についての電子版パラレルテクスト（diplomatic edition）を用いてラテン語原典との比較対照を行い、それぞれの作家が描く女性像の特徴を明らかにすることを目指した。しかし、再び COVID-19 の感染状況の悪化に伴う海外渡航制限措置の継続により、現地図書館でのテクスト原写本の閲覧が不可能となり、本研究課題の要となる電子版パラレルテクスト（diplomatic edition）を完成することができなかった。その間、オンラインで閲覧が可能な写本については、画像をもとに校訂作業を継続して行った。

（５）令和４年度（期間延長２年目）は、海外渡航制限が解除されたのを受けて、課題となっていた現地図書館でのテクスト原写本の閲覧を実施し、電子版パラレルテクスト（diplomatic edition）を完成した。この作業の過程で、既存の刊本テクストについて修正が必要と思われる箇所を見出し、リストアップした。同時に、完成したテクストをもとに、Aelfric 独自の語彙選択の傾向や作品構成上の工夫に焦点を当てて検証作業を行った。

その結果として、まず、Aelfric の作品構成は、ラテン語原典に比べて簡潔かつ時系列が明確であり、聴衆の理解への配慮が強く意識されていたことが推察される。次に、彼の女性描写で使用される修飾語には、形容詞を中心に定型化が見られる。そのことによって、原典が持つ女性聖人の個性や女性性が希薄になり、描かれる女性像が抽象的かつ様式化される傾向にあることが指摘できる。加えて、彼が女性聖人を描写する場合に特徴的に用いる語彙は、基本的に本来語であり、*Beowulf* などの古英詩に描かれる高位の女性に対して使用されている語彙と共通していることも挙げられる。なお、ここでの研究成果の詳細は論文にまとめ、今後、学会誌等へ投稿の予定である。

古・中英語期（特に古英語期）の女性研究は、世界的に見ても、他の時代に比べて大きく立ち後れている。本課題研究は、そうした状況に対してひとつの具体的な成果を示したと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 島崎里子	４．巻 47
２．論文標題 Aelfricの「聖ユージニア伝」をめぐって--Diplomatic Text of 'the Life of St. Eugenia' in Aelfric's Lives of Saints, Trial Version	５．発行年 2020年
３．雑誌名 昭和女子大学女性文化研究所紀要	６．最初と最後の頁 23，35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 島崎里子	４．巻 46
２．論文標題 古英語期における「聖アグネス伝」の受容について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 昭和女子大学女性文化研究所紀要	６．最初と最後の頁 53，70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関